JAPAN CREATIVITY SOCIETY
日本創造学会
JCS NEWSLETTER

第42回日本創造学会研究大会

大会テーマ：「緊急事態後のおもてなしイノベーション」

－Withコロナ時代のおもてなしとテクノロジーの新結合を探求する－

開催日：2020年10月31（土）～11月１日（日）

豊田貞光
大会実行委員長

藤原由美
大会副実行委員長

全プログラム
オンライン開催
（Zoom）

本大会は、42回目にして初めて尽くしです。初オンライン大会、初オンライン会員総会、また初デジタルポスターセッション設置です。通信環境や運営面で不安はありますが、学術大会の世界もまさにWithコロナ時代です。一所懸命に頑張ります。

当大会において創造研究を通じ、いかに社会に貢献し、新たな知見を創出できるか？その探求の突破口として、基調講演『非連続の連続』 ～新しいイノベーションエコシステムに求められるもの～と題し、小泉英明先生に講演をいただき、近未来のイノベーションのあり方を紐解いていきます。心して聴きたい内容です。次にパネルディスカッションでは、『-Withコロナ時代のおもてなしとテクノロジーの新結合の探求』と題し、オンライン（エンターテインメント・授業・リモートワーク）のフロンティアを語っていただきます。パネラーは、産業戦略研究所 代表 村上 輝康先生、ＭｅＲＩＳＥ株式会社取締役 ＣＯＯ ／ ＦＯＵＮＤＥＲ 渡辺 和喜氏、北陸先端科学大学院大学 理事・副学長 永井 由佳里先生をお招きし、Withコロナ時代をマクロ、ミクロな観点から社会システムやICT場面、学習場面、サービスフロンライン場面、リモートワーク場面などを通じ熱く、エッジの効いたトークを繰り広げていただきます。

２日目のZoomを活用した研究発表は、研究発表セッション40件、デジタルポスターセッション19件と大賑わいです。創造研究領域における伝統的なタイトルから最先端テクノロジーのタイトルまでバラエティに富んでいます。アカデミックな側面とビジネスの側面で大変期待できる研究内容となっております。また、デジタルポスター発表を中心に若手の台頭も目立ちとても楽しみです。是非とも忌憚のない議論を繰り広げ、次の担い手の背中を押してください。

ご参加の方、楽しんで「緊急事態後のおもてなしイノベーション」のヒントをお持ち帰りください。

まだ申し込まれてない方、まだ間に合います！このチャンスを逃さず参加してください！お待ちしております！！

（大会実行委員長：豊田貞光）

第42回研究大会参加申込受付中

参加申込は引き続き受付ております。（参加方法は３Ｐに記載）※発表申込は終了しました。
参加費：学生会員+非会員学生：2500円、正会員：3000円、非会員：4000円

◆基調講演◆ 10/31(土) 13:10-14:10

講演者：
小泉英明氏

「非連続の連続」

～新しいイノベーションエコシステムに求められるもの～

～講演者プロフィール～
１９７１年日立製作所入社。偏光ゼーマン原子吸光法の創出と実用化により、１９７６年東大理学博士。日立製作所にて、物理・医療・環境・領域架橋分野で新原理や新技術創成を続ける。現在、日立製作所名誉フェロー、東京大学先端科学技術研究センターフェロー／ボードメンバー、国際理工学アカデミー連合（ＣＡＲＥＴＳ）理事、欧米・豪州の研究機関の各種ボードメンバー兼務、中国工程院外国籍院士・東南大学栄誉教授。大河内賞（３回）他、内外の受賞多数。

◆パネルディスカッション◆ 10月31日(土)14:30～16.:50

司会
藤原由美

-Withコロナ時代の おもてなしと テクノロジーの新結合の探求-

～オンライン（エンターテインメント・授業・リモートワーク）のフロンティア～

■パネリスト■

村上 輝康　**産業戦略研究所 代表**

元野村総合研究所理事長。ベネッセ、NTTドコモの取締役（独立社外）を歴任。情報学博士（京都大学）。2000年代には、ユビキタスネットワークのICTパラダイムを提唱し、主として情報通信分野で活動。2010年代には、サービソロジー（サービス学）の確立に注力し、幅広いサービスイノベーションに貢献。サービス学会顧問。「創造の戦略」の著作あり。

渡辺 和喜　**MeRISE株式会社取締役 COO ／ FOUNDER**

大学在学中ウェディングプロデュース会社を設立し、代表取締役に就任。地方特化型投資銀行にて、経営戦略コンサルタントとして、数十社の経営支援、経営者育成、Ｍ＆Ａサービスに従事。支援先の取締役も歴任。現在「世界への挑戦をもっと身近にしたい」という志のもとフィリピンセブ島にて社会人向け語学学校、日本にて英会話スクールを9校舎運営。

永井 由佳里　**北陸先端科学大学院大学　理事・副学長**

武蔵野美術大学修士、千葉大学博士、シドニー工科大学Ph.D、2004年にＪＡＩＳＴ知識科学研究科に着任。現在、北陸先端科学技術大学院大学理事・副学長、日本創造学会理事長。専門は知識科学、デザイン学、認知科学、特に創造性。

大会プログラム(予定)

全オンライン開催			
第１日目　2020/10/31		第２日目　2020/11/1	
13:00-13:10	開会挨拶　　実行委員長 豊田貞光	9:30	アクセス開始
13:10-14:10	基調講演　　小泉英明氏 非連続の連続 ～新しいイノベーションエコシステムに求められるもの～	10:00-12:30	研究発表 （発表20分+質疑切替10分） デジタルポスター・動画発表 （発表10分+質疑切替10分）
14:30-16:50	パネルディスカッション パネリスト： 村上輝康氏　渡辺和喜氏　永井由佳里氏	12:30-13:30	昼休み
17:00-17:40	会員総会報告・表彰、特別表彰　等	13:30-16:00	研究発表 （発表20分+質疑切替10分） デジタルポスター・動画発表 （発表10分+質疑切替10分）
17:45	終了	16:30	終了

オンライン(Zoom)大会への参加方法

1．大会参加申込書を学会事務局までお送り下さい。申込書は大会ウェブサイトよりダウンロードできます。
http://www.japancreativity.jp/conference/42nd/registration.html

2．事務局より受付完了メールが届きましたら、申込書記載の所定の口座に参加費をお振込み下さい。

3．大会開催前に大会実行委員会より参加者宛に研究大会Zoomミーティングへのアクセスのための ID等を電子メールでお送りします。
２日目の発表会では発表グループごとにミーティングIDが設定されます。参加者は発表スケジュールを確認し、入りたいグループのミーティングに参加できます。
途中でミーティングを退出し、違う発表グループに参加することも可能です。
但し、発表中は聴講のみで質疑の時間に質問を受け付けます。グループ司会者の指示に従って下さい。

4．参加にはZoomアプリケーションのダウンロード、インターネットに接続できる環境が必要です。事前に実行委員会より送付される注意事項に従いご準備ください。

会員総会について

“書面による総会”へのご協力をお願い致します

2020年度日本創造学会総会は新型コロナウイルスの感染状況を鑑み、参集による総会を行いません。会員の皆様へメールによる書類送付を行い、その返信で決議をとります。10月中に総会資料PDFをメールで送付致します。

内容をご確認の上、内容の承認・否認について**送付されたメールへの返信を必ずご送付下さるようお願い致します。※会則により会員は総会への参加が義務となっております。今回は返信を送信することで参加とみなされます。**

メールによる評決結果は、10月31日に開催されるオンライン大会の総会報告の際に、理事長より報告致します。

《研究発表スケジュール（予定）》

研究発表Aグループ（発表時間20分・質疑切替10分）

時間	氏名	発表タイトル	所属
10:00 -10:30	吉田拓也	知財創造教育をテーマにした教科横断型授業における生徒の新しい価値を生み出す過程の考察～理科と情報科による実践報告～	四天王寺東高等学校・中学校
10:30 -11:00	豊田貞光	Withコロナ時代におけるオンライン型教育（研修）に関する一考察	産業能率大学 総合研究所
11:00 -11:30	井上奈美子	大学1・2年生の職業価値観の検証 ～インターンシップとブロックを用いた事前事後研修を通して～	福岡県立大学
11:30 -12:00	丸山　一芳	伝統産地の革新における外部人材と連続的知識創造 ―福井県におけるRENEWの事例分析―	東海学園大学
12:00 -12:30	齊尾恭子	フォレットの<統合（integration）>とは何か -創造的な学びの現場実践を支えるマネジメントのために -	武庫川女子大学大学院
13:30 -14:00	古川洋章	プライバシーに配慮した遠隔グループワークのためのメディア授業支援システムの検討	北九州市立大学
14:00 -14:30	TRINH THI NGOC LAN チン ティゴック ラン	少子・高齢化社会のベトナムにおける女性人財育成のイノベーション	西九州大学大学院
14:30 -15:00	片岡敏光	知財創造教育教材の考察	㈱パットブレーン
15:00 -15:30	小粥幹夫	新型コロナ感染症克服で新たな文化構築	ひとつなぎの会
15:30 -16:00	杉原麻美	学習者の創造性を育むための共同体づくり －ゼミナール教育の聞き取りとオンライン授業での実践を通じて－	淑徳大学

研究発表Bグループ（発表時間20分・質疑切替10分）

時間	氏名	発表タイトル	所属
10:00 -10:30	森　進太郎　他	サービス産業における地域木材がもつ文脈価値の活用の可能性	北陸先端科学技術大学院大学
10:30 -11:00	越智裕一　他	古民家カフェにおける消費価値 －資源写真地図を用いたリモートワークによる分析－	北陸先端科学技術大学院大学
11:00 -11:30	藪内公美　他	アート視点による創造性を探るリフレクション研究	北陸先端科学技術大学院大学
11:30 -12:00	山口和海	「木になる紙」（環境・経済・森林保全・福祉等施策の融合）による地域の複合的な価値の創造に関する比較研究	西九州大学大学院
12:00 -12:30	國藤　進	W型問題解決学とＳＥＣＩモデルとの関係性について	北陸先端科学技術大学院大学
13:30 -14:00	三浦元喜	高解像度ディスプレイを最大限に利用するPDFビューアの開発	千葉工業大学
14:00 -14:30	清水謙汰　他	競争のデザインによるブレインストーミング支援システムの研究	
14:30 -15:00	BAO　HAIQING 包　海清	創造性を促す視点から美術科教師の授業発話分析 ―KH Coderを用いた授業分析―	北陸先端科学技術大学院大学
15:00 -15:30	谷口俊平　他	共創プロセスにおけるデザイナの気づきに関する研究	北陸先端科学技術大学院大学

研究発表Cグループ（発表時間20分・質疑切替10分）

時間	氏名	発表タイトル	所属
10:00 -10:30	櫻井敬三	技術課題（B to B）解決には強制連想法が有効	日本経済大学大学院
10:30 -11:00	池田文人　他	The Framework of QQ Test —Toward the Evaluation of Creative Questions—	北海道大学
11:00 -11:30	國枝佳明　他	新たな海洋教育　ーwithコロナ時代に向けてー	東京海洋大学
11:30 -12:00	小出　実	MOTと知財経営に関する 企業におけるイノベーションの実践方法に関する研究	㈱オプトクリエーション
12:00 -12:30	田村新吾	創造的求心経営論	㈱ワンダーワークス
13:30 -14:00	今村健太郎	外国人の日本国内起業	開智国際大学
14:00 -14:30	深川千仁	トランスナショナル創業における起業家精神研究 ～韓国で起業した日本人起業家をモデルに～	北陸先端科学技術大学院大学
14:30 -15:00	中田泰子 他	学生の起業モチベーションを活かす産学連携の「場」	北陸先端科学技術大学院大学
15:00 -15:30	江越みどり	健康管理・生活支援を担う専門職連携システムの研究	西九州大学大学院
15:30 -16:00	中川　徹	創造的問題解決の諸方法論のウェブサイト： 世界カタログ集の開発（WTSPプロジェクト）	大阪学院大学

研究発表Dグループ（発表時間20分・質疑切替10分）

時間	氏名	発表タイトル	所属
10:00 -10:30	北原康富　他	専門家の知識が非専門家のアイデア生成に与える影響	名古屋商科大学
10:30 -11:00	片山　立	個人の変容に基づくチームの自己組織化モデル	夢・アーキテクティング工房
11:00 -11:30	赤木真由 他	個人とチームの創造性に影響を与える個人の特徴の関係性についての仮説	慶應義塾大学大学院
11:30 -12:00	米田巖根	高校生を対象とした「システム×デザイン思考」教育の実践	帝京科学大学
12:00 -12:30	醍醐孝典　他	デザイン思考の実践による人材育成効果に関する研究	慶應義塾大学大学院
13:30 -14:00	ZHANG YUMENG 張　雨濛　他	動画共有プラットフォームにおける共創的ソーシャルメディア機能の顧客関係性への影響	九州大学
14:00 -14:30	末吉進太郎　他	グラフィティライターの創造的動因と社会規範	九州大学
14:30 -15:00	新郷皓大　他	仮想の同室感が作業効率に与える影響	久留米大学
15:00 -15:30	冨沢日出夫　他	二項分布を仮定した一般化線形モデルを用いた人口減少に係る新たな評価指標創出の試み	産業能率大学総合研究所
15:30 -16:00	新村佳嗣　他	地域の「よりあい」における創造性の阻害要因と促進要因（仮）	滋賀県立大学

デジタルポスター・動画発表Eグループ
（発表10分・質疑切替10分）

時間	氏名	発表タイトル	所属
10:00 -10:20	冨沢日出夫　他	Computational thinkingを活用した思考トレーニングプログラム開発の試み	産業能率大学総合研究所
10:20 -10:40	髙瀬和也　他	小学校の環境教育における問題発見・課題解決学習の分析 －創造的問題解決の実践に向けた調査的研究－	早稲田大学大学院
10:40 -11:00	MAI THI TINH マイ ティ ティン	交通システムによるベトナム経済発展	開智国際大学
11:00 -11:20	戸塚水無瀬　他	大学生のコミュニケーションツールとしての対話型鑑賞	淑徳大学
11:20 -11:40	安松　健	縫い目のないひとつの世界, ひとつの宇宙として KJ法の創造的統合におけるドゥルーズ概念による考察	（株）オージス総研 行動観察リフレーム本部
11:40 -12:00	石井力重	オンラインでのブレストはやりにくい、から始まり、オンラインの特性を生かしたブレスト方式の開発へ 『A+Cブレスト』	アイデアプラント
12:00 -12:20	田島悠太　他	倒立振子系の非線形数理モデルに対する解の振動性	広島商船高等専門学校
13:30 -13:50	木村拓馬　他	ダイヤモンドアルファ差分を利用した新しい離散化	広島商船高等専門学校
13:50 -14:10	宗利泰知　他	減衰項をもつ非線形微分方程式の振動定理	広島商船高等専門学校
14:10 -14:30	藤島　廉　他	オリンピック・パラリンピック教育の継続的な実施に向けた一考察	広島大学大学院

デジタルポスター・動画発表Fグループ
（発表10分・質疑切替10分）

時間	氏名	発表タイトル	所属
10:00 -10:20	松前あかね　他	域外在住者シビックプライド傾向　－関係人口醸成の視点から－	九州大学
10:20 -10:40	Ferdi Trihadi Raharja フェルディ トリファディ ラハルジャ 他	共創プロセスが語彙修得に与える影響	九州大学
10:40 -11:00	平沢洸　他	概念生成プロセスがメタ認知へ及ぼす影響	九州大学
11:00 -11:20	東海林慶祐　他	客観的指標による「響きあい」捕捉の試み	九州大学
11:20 -11:40	谷口 真悟　他	円滑な会議をすすめるための飲料容器形状の検討	久留米大学
11:40 -12:00	谷内彪流　他	マネジメント能力を向上させアントレプレナーを目指す学生団体「ＪＥＴ」	北陸先端科学技術大学院大学
12:00 -12:20	松前あかね　他	表情筋筋電図による相互主観性形成度の捕捉	九州大学
13:30 -13:50	林 靖敏　他	共創プロセスが文脈知識・関係性・共創造性に及ぼす影響	九州大学
13:50 -14:10	羽田野世惟　他	同調の誤選択時後悔への影響－意思決定のデザイン－	九州大学
14:10 -14:30	西野涼子　他	デザインと共創に関する文献研究　-創造性研究の視点から-	北陸先端科学技術大学院大学

2020年 7月5日
第64回クリエイティブサロン報告
（Zoomによるオンライン開催）

講演会:『創造技法としての目的工学ワークショップ』

講演者:安藤正行氏　目的工学研究所事務局長、Ba Lab代表、㈱クレアン経営企画部長・・サステナビリティコンサルタント

何か新しいことを創造しようとするときには、たいていプロジェクトが立ち上げられるのではないでしょうか。では、プロジェクトはどのように立ち上げられ、どのようなプロジェクトメンバーが集まれば、その成功確率は上がるのでしょうか。

同質ではない、多様な人々を集めることや、ひとつの組織、企業の枠を超えてメンバーを募ることが大切、などと、よく言われます。また、そうした人々を集め、議論・対話をする場所としてフューチャーセンター、と呼ばれるような「場（Ba）」もつくられるようにもなりました。ただ、現状では、多様性はむしろ遠心力として働いてしまったり、フューチャーセンターのような場も活かせていなかったりという状況にあるのではないでしょうか。

目的工学ワークショップは、現状に問題意識を持ち、あるべき未来のために新しい何かを創造したい、と望む方たちのためにデザインされたワークショップの手法です。特長は目的（めざすあるべき姿）を創出・共有し、共感にもとづきチームを形成し、実際にプロジェクトを起こすところにあります。バックグランドが異なる、多様な人々が協力するには、「目的」が大切になるのです。

目的工学ワークショップでは、①個別の目的（小目的）の創出、②社会の目的（大目的）の創出、小目的と大目的をつなぐ③プロジェクトの目的（中目的）の創出という手順をとります。そして③プロジェクトの目的（中目的）に共感したメンバーがプロジェクトチームを組み、プロジェクトの実現に向けて調査・探索を行い、必要なリソースを検討、調達を試みます。このように目的工学ワークショップは、プロジェクトを立ち上げることを目的に実施され、実際にいくつものプロジェクトの卵を生むことに成功しています。フューチャーセンター、イノベーションセンター、リビングラボなどの「場（Ba）」を運用する方々に、ぜひご活用いただければと思います。

ワークショップ:『創造技法を活用したプレゼンKnow how/Do how —90分でライバルに勝てる「フラット3」メソッド—』

講師: 豊田貞光氏　学校法人産業能率大学　総合研究所 経営管理研究所　主席研究員、日本創造学会副理事長

7月5日、初のオンラインによるクリエティブサロン第2部ワークショップ「創造技法を活用したプレゼンKnow how/Do how」を担当し、いくつかの驚きがありました。

1つ目は、オンライン（Zoom）でもサロンが成立するという事実。事前準備など苦労しましたが、段取り方法や、質疑の対応、データ、音声保存方法など今後オンライン運営を際、いくつかのアイデアが得られました。少し自信につながりました。

２つ目は、参加会員の実践知の高さです。『実例で学ぶ創造技法』に書いた「*フラット3」というプレゼン手法のコアな部分を15分ほどレクチャーし、テーマ**「オンラインで研究大会を成功させたい責任者に対し、発表論文投稿５０％増と効果的な進め方を提案する」**を実際にトライしていただき、発想フェーズをチャットボックスにアップしていただきました。

すると、約30名の参加者から集まったアイデアは50以上あり、独創的で実践的なものが多数含まれていました。数点パクらせていただきました（謝々）。

その結果、42回大会の発表論文投稿数は当方が担当した36回大会と比して３倍増（19件→約60件/注；デジタルポスター含む）になりました。うれしい上方修正ですね。

また、その後の収束フェーズ（ロジックツリー化）においても、短時間で優れた作品が生まれました。データ化し添付していただいた三浦先生（千葉工業大）、西宮先生（@金沢）は、秀逸でした。（個人情報のためアップは控えますが）。

何はともあれ、Withコロナ時代、先行き不透明ですが様々チャレンジを施し、会員の皆様の英知を終結し、新たな世界を切り拓いていきたいものです。

改めてご支援、ご助言感謝です！　（記事 豊田貞光）

*フラット3とは、主張を根拠で支えるプレゼン技法で、最終成果物が90分で完成し、発表の練習を積めばライバルに勝つことができるメソッドです。最終成果物がデジタル、アナログどちらでも応用できます。様々な創造技法が凝縮した至極の一品です。（書籍『実例で学ぶ　創造技法』に掲載しています。）

日本創造学会　論文賞（Vol.23）

日本創造学会論文賞は、学会賞委員会による審査の結果、次の方が受賞されました。

氏名：小國美貴 ・神田陽治
論文タイトル：持続可能性の探求における農村の地域づくりへのアクション・リサーチ

入会者（入会順）

◆◆◆新入会員紹介◆◆◆

氏名	会員種	所属	住所	専門分野
江越みどり	学生会員	西九州大学大学院	佐賀県	産業福祉・労働福祉 ソーシャルワーク方法論
野村雅彦	正会員	レノボ・ジャパン合同会社	神奈川県	ソフトウェア開発 ソフトウェア品質管理
人見健三郎	学生会員	北陸先端科学技術 大学院大学	神奈川県	アンテナ工学 経営管理
醍醐孝典	正会員	株式会社studio-L	大阪府	コミュニティデザイン ワークショップデザイン
谷口俊平	学生会員	北陸先端科学技術 大学院大学	石川県	プロダクトデザイン デジタルファブリケーション
山口和海	学生会員	西九州大学大学院	佐賀県	地域経済論・環境社会学
TRINH THI NGOC LAN	学生会員	西九州大学大学院	佐賀県	女性福祉・ジェンダー論 高齢者福祉
新郷皓大	学生会員	久留米大学	佐賀県	社会学
秋山貴実子	学生会員	立教大学大学院	東京都	市場調査 デザイン思考
越智裕一	学生会員	北陸先端科学技術 大学院大学	東京都	知識科学・技術経営
髙瀬和也	学生会員	早稲田大学大学院	埼玉県	教育工学・安全人間工学
清水謙汰	正会員		京都府	知識科学
ZHANG YUMENG	学生会員	九州大学大学院	福岡県	メディア論・顧客関係性
末吉進太郎	学生会員	九州大学大学院	福岡県	ソーシャルデザイン
徳見理絵	正会員	オオミシマワークス合同会社	愛媛県	UXデザイン

事務局メッセージ

「Never let a good crisis go to waste. Well, here's our chance.（危機を無駄にするな、今こそチャンス到来。）」ウィンストン・チャーチルの言葉です。コロナ禍で、私達は生活を変えることを余儀なくされましたが、将来のためにやるべきことは何か、ここでクリエイティブな思考が試される時です。是非第42回オンライン大会にご参加下さい。

（事務局：比嘉）

日本創造学会 ニューズレター
2020年9月発行（№3）
日本創造学会事務局
発行人 ：永井由佳里
編集担当：比嘉由佳里
〒272-0031千葉県市川市平田
1－10－2
Tel 080－3465－6152
Fax 047－718－1747
e-mail：jcs-info@japancreativity.jp